

桜川文芸

俳句

〔大和俳句愛好会〕

鶏頭に踏み言葉を増やしけり

鈴木 ふみい

三叉路の真中を選ぶ大花野

古橋 益子

お喋りはつきぬ公園秋の空

成田 あさ

矢のように過ぎ去る月日黄落期

鈴木 登美子

湧き出づる不思議なお湯や秋暑し

田代 テイ子

産土の自慢の寺や山粧ふ

岩渕 のぶ子

〔桜川岩瀬俳句会〕

古き街銀杏落葉をふみ歩む

大関 しづ子

鴉がつつく土に逆立つ落花生

永瀬 ちい

灯明を仰ぐ御堂に寒椿

細谷 充子

齢重ね一人楽しむ菊の花

菊池 すい

葉ぼたんの輝く渦を愛でおりぬ

上野 好江

全山を染めし楓の水に落つ

長井 冬扇

短歌

〔やまと短歌会〕

春浅したそがれの木々染まりゆく筑波の

山も茜に暮るる

和泉 稲子

蔵人の手になる麴芳しくピロードのごと

く今朝仕上りぬ

西岡 和子

提灯の明かり仄かにゆうらゆらこの世と

あの世の道を行き交ふ

深谷 快子

大一番勝負の瞬間座ぶとんが土俵をめが

け横ななめから

中原 すみ子

逝きし夫の温もり深き座布団より昔語りの

ひとつ又ひとつ

皆川 米子

長屋門の白壁染めし大夕焼け影絵のごと

く木々を映しぬ

塩谷 明子

〔岩瀬短歌会〕

還暦を共に迎える夫と吾距離をもちつつ

されど仲よく

浜野 和 操

職無くしハローワークに通う娘それでは

母さんと声を大きく

萩原 きしの

厨まで鯛の声聞えきて家族待つ間の夕暮れ
れ佗し

石田 守子

見はるかす四方の山々濃き緑風そよぎ来

て稲穂出揃ふ

大関 にち子

トランペット黄色の二十花咲揃い吾が

家の庭に演奏会始まる

片岡 喜知子

免許証更新の吾が写真変貌たどるペー

パードライバー

大関 節子

今宵また風呂場の隅にリンリンと声はす

れども姿は見えず

泉 三郎

雨吸ひて緑鮮らし孟宗林面向く風に空へ

靡かふ

岡野 禮子

故郷の川辺に立てば幼き日友と泳ぎし思

い出の湧く

飯田 良江

〔岩瀬秋歌会〕

栄養もとれず働かねば難産とひたすら行

き来し後期高齢者達

坪井 ゆき子

ゆく秋に錦織りなすもみぢ葉の素足に散

りぬ真紅の命

角田 玉枝

父を看とり帰宅の間に木屋のほのかな香

りにたまゆら安らふ

大関 節子

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ